

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だより

2015年4月24日発行



5月の聖句「主は（わたしの）羊飼い」（聖書 詩編23：1）

聖公会北海道学園 岩見沢聖十字幼稚園
チャプレン 池田 亨

遊牧の牧羊文化を背景としたなかで、神への深い信頼を、羊飼いと羊との絆であらわした有名な詩篇の一節です。羊飼いは、群れを導き、水と草地を求めながら移動し羊たちを養います。そして危険を伴う旅路において、羊飼いは外敵から羊たちを守ります。

聞くところによれば、羊一頭一頭に名前をつけて、その名を呼びながら、みちびくのたそうです。羊は弱い動物ですが、飼い主の声を聞き分ける能力を持ち、けっして他の羊飼いの声に応じないそうです。

イエスさまは「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。（ヨハネ福音書6章11節）」と言われました。いのちがけで、わたしたちを大切にされる神さまの愛、聖書のメッセージはわたしたちを慰めます。



ケーテ・コルヴィッツは、ナチスから「退廃芸術」と迫害されながらも、平和や家族を描き続けた画家でした。

この絵を見たら子ども達は「あっ！礼拝の時に見たよ！」と言うかな？覚えてるかな？池田先生が大好きな絵で、ケーテ・コルヴィッツ（ドイツ・1867-1945）の「家族」という1931年の作品です。

お母さんの胸に飛び込もうとする赤ちゃんを、グローブのようなお父さんの手ががっしり支えています。お父さんの顔は見えないけど、首の角度から、赤ちゃんの顔をのぞき込んでる様子がわかります。赤ちゃんの行動を大喜びで受け止めるお母さんの表情も素晴らしい。

この赤ちゃんのように、子ども達は神様にかっしりと守られ、大喜びで迎えられる存在です。本当に一人一人が大切な存在です。

聖十字幼稚園の自慢

聖公会北海道学園 岩見沢聖十字幼稚園
園長 菊地 和子

新学期も2週間が過ぎましたが、昨日泣いていた子が今日はニコニコ笑顔で飛び込んできたり、やんちゃな年長さんが、「ママ!ママ!」と泣いている年少さんを、おもしろい顔で笑わせてそのあとずっと面倒を見ていたり・・・毎日の子ども達のようにすが愛おしく、本当にすてきです。

でも、聖十字幼稚園の自慢は子ども達だけではありません。私が感動した聖十字のすごいスタッフ、先生達の一日の様子をご紹介します。

4月18日(土)AM9:00~11:30

休みの日でしたがスタッフ全員でカリキュラムや予算の使金について話しあいました。

まず第1に危険箇所と危険な時間帯について

近くの人とハグして出さなければ先生方のプロの目は、園のすみすみまで届き、修繕したいところや人の手を増やしたい時間を確認。第2は子どもたちを成長させる遊具



札幌への移動時間

午後から札幌での研修会があるので車中ではあります。

PM1:30~4:00

札幌聖ミカエル幼稚園で全道5つの聖公会幼稚園スタッフが集い、研修会をしました。なんと、聖十字は総勢12名で一番参加が多かったのだよ!!

前に出てまとめを発表する先生も多かった。勉強熱心なんです。北村大から毎回心理学の先生が助言に来てくれます。いつも勉強になります。



岩見沢へ帰る

研修会後も園舎を見学して遊具を見たり、学んでいました。

家庭訪問や個人懇談などがまだまだ続きます。どうぞ先生達からお子さんの様子をたくさん聞いて下さい。PTA 総会では、普段の子ども達の様子を、写真や(できれば)動画でご紹介しますのでどうぞお楽しみに!